

2025年度 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会総会 開催

日時 2025年6月7日 15時～16時 開催形式 Zoom開催

会員数265人(委任状103人、当日出席33人、合計136人)
過半数に達したことを確認し総会が開催されました。

● 議題

第1号議案・第2号議案

2024年度 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会事業
報告・決算報告

監事から学術集会について収入にみあった支出での開催が望ましいとの監査報告があった。特に質問なく可決された。

第3号議案・第4号議案

2025年度 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会事業
計画(案)・予算案(案)

特に質問なく可決された。

● その他

・2025年度学術集会(大阪大会)について北島博之
大会長から報告がありました。

・本会倫理規則制定にあたり長谷川京子理事から説明
がありました。

・2026年世界乳幼児精神保健学会世界大会について
香取奈穂理事から報告がありました。

リニューアルしたホームページ

昨年10月、当学会HPがリニューアルされました。まだ準備中のコーナーも幾つかあり、完成とは言えませんが、完成を待たずに新しい情報をどんどん更新しています。特筆すべきは学会が推薦する図書を載せたことでしょう。どうぞご自身の学びの参考にしていただくと幸いです。またこの後も、世界乳幼児精神保健学会

(WAIMH)の情報コーナーや会員の活動紹介のコーナーなどを新たに設けることを計画中です。

これからも常にブラッシュアップして行きたいと考えております。どうぞ皆さまの声をお寄せください。よろしくお願いします。

ホームページ運営委員会

JAIMH理事による出張講演

本学会では各理事が会員の皆さまの地域にお伺いして、講演会を開催させていただいております。講師謝金は不要です。(交通費・宿泊費のみご負担ください)

理事名、講演内容、申込み方法などはHPの「セミナーのご案内」の中の、「本会理事による出張講演のご案内」をご参照ください。



日本乳幼児精神保健学会 事務局

● 2024.9月に事務局が移転しました。

〒231-0063 神奈川県横浜市中区花咲町 1-4 ベルメゾン桜木 412(ゆりかご訪問看護ステーション内)

一般社団法人 日本乳幼児精神保健学会事務局

TEL 045-341-0025 FAX 045-341-0365 E-mail jimukyoku@jaimh.org

世界乳幼児精神保健学会 日本支部



会費のお振込みは下記の口座をお願いします

みずほ銀行(金融機関コード:0001) 新横浜支店(店番号:356)
普通預金 3055110 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会



Japan Association for Infant Mental Health

日本乳幼児精神保健学会

NEWS LETTER

発行者 日本乳幼児精神保健学会 理事長 渡邊久子

10号

2025年8月1日

第5回 学術集会に向けて



大会長 北島 博之
新生児科医

大阪万国博覧会終了後の「いいお産の日」の前日と当日に第5回学術集会を行わせていただきます。私は大阪母子医療センターで、超早産児や障害を抱えた新生児の診療と親子共々の長期フォローを行いながら、開院から35年間勤めました。その親子たちから健康な心がどのように育ってゆくのかに関して多くのことを教わりました。

ヒトの心の始まりが妊娠中からの親子関係にあり、生後早期からの赤ちゃんとの健康的な相互作用でヒトへの信頼・健やかな心が育まれていきます。しかし、この健康的な相互作用がどういう形で行われるのかは、お産を含めて知られていません。E.H.エリクソンは「アイデンティティとライフサイクル:自我同一性」の「健康なパーソナリティの成長と危機」で、多くの現代人が、胎児も含めて赤ちゃん達が生育する環境の性質を敏感に反映するという結論に達しようとしており、そしてお産においても、両親の緊張や不安や怒りを感じ取っています。さらにヒトの子ども時代は長いので、親や学校における重大な不安や不安定感が不当に増大すると、大人になってもこれらは、漠然とした不安という形で存続しま

す。出生前から成人するまで、この親や環境の不安や不安定さがなく、子どもが健康的な相互作用を営める一番の環境ではないでしょうか。さらに彼は「幼児期と社会」の「不安を超えて」という結論に、よく知った看護師に付き添われた気持ちの良いお産を目の前で見て、1960年代の米国では既に麻酔分娩が当たり前でしたが、このような良い形の自然分娩では、母子共に大きな漠然とした不安が消えているので、今後はお金をかけてでも行うべきです。と述べています。

今学会では、1日目に中高生の自殺予防のために「いのちの教育」をいかに普及するかを話し合い、2日目には市民公開講座で、昨年南方熊楠賞を受賞された松岡悦子先生によるお産のお話とお産経験のある3名の学会員の方々のお産に関する鼎談も予定しています。午後には京都大学の明和政子先生に「子どもが育つ・親も育つ～アタッチメント形成の科学～」のお話と最後に母子にとって幸せなお産は、どのようにしたら可能なのかなどをシンポジウムで検討します。どうぞ、皆様方のご参加をお待ちしています。

第5回 学術集会 in 大阪

◆ 大会テーマ 妊娠、出産から始まる親子へのよりそい
～親子の出会いからはじまる甘えに満ちた子育てを目指して～

日時 2025年11月2日(日)、3日(月)

会場 千里ライフサイエンスセンター

大会長 北島 博之

参加費 会員7,000円(非会員8,000円)
団体参加10,000円(5名分)

申込み 下記URL または右のQRコード
からお申し込みください。

<https://jaimh5-osaka.peatix.com/>



どうほく子ども研究会

研究会事務局
内海 千枝

北海道旭川市を中心に近郊の方々とともに勉強会を続けてきました「どうほく子ども研究会」です。

2018年に開催した「日本乳幼児精神保健学会 FOUR WINDS 旭川大会」の実行委員会活動を機に、大会準備と並行して研究会を立ち上げました。メンバーは医師・心理士など・社会福祉士・助産師・保健師・保育士・教員・児童福祉司などなど、母子に関わるさまざまな職種で、所属もさまざまです。主に講演会や事例検討に取り組んでいましたが、コロナ禍になり、しばらく活動休止状態でした。

2023年に活動再開した頃には、支援困難事例や多くの関係者が関わる事例を抱え、支援者自身が悩み

を抱えていたことから、2025年からは、事例検討を中心に取り組むこととしました。本学会の学びの場の活用や理事の方々の支援を受けながら、充実した事例検討にしていきたいと思い、入会をさせていただくことといたしました。

研究会での事例検討会は試行錯誤しながら運営している段階ですが、母子に関わるさまざまな職種や立場の方が、さまざまな角度から対象理解を深め、それぞれの職種・立場で支援していけるきっかけとなるようにしていきたいと思っています。学会の皆様のご指導・ご支援を切に願っています、どうぞよろしくお願いいたします。



研究会事例検討会の様子

トロント大会

WAIMH第19回大会は、カナダ、トロントで2026年10月2日～6日に開催されます。

大会内容

テーマ 「Harmony in Diversity: Nuturing the Youngest Minds around the World」
(多様性の中のハーモニー 世界中の幼いこころを育む)

演題登録 2025年6月2日～12月1日

事前参加登録 2025年9月2日開始

Toronto congress website

https://cvent.me/Av3Kn1?RefId=website_WAIMH

皆様、トロントで会いましょう。



国際委員会

コロナ禍のあと

永寿総合病院小児科
田中 祐子

2025年の2月はあっという間に過ぎ、コロナ禍から時が経ったことを初めて感じました。私の勤務先永寿病院にとって2月は、2020年日本初の院内クラスターによる病棟閉鎖が始まった月で、あの時が生々しく思い出される時期です。当時の院内は、非常事態であり、また、連日の報道のあおりで、深夜にかかる脅しのような電話や、タクシーの乗車拒否、さらには家庭内の差別もあり、私たち自身がばい菌扱いされました。過酷な現場では、職員のメンタルステイタスも悪化し、誰も経験したことのない不安を抱えました。

こうした中で、5類に移行し、コロナ対策補助金の終わりを前に、赤字におびえて夢中で働いてきました。大なり小なり日本中がそうなのですが、残念ながら、「働けど働けど物価高に吸い取られ」ています。

コロナ前の職員は約3分の1が残っています。幹部職員は短期間で次々交代しましたが、看護科長の大多数はやめていません。以前に比べ、発言したものの勝ちという力動が減り、発言や行動が安全で活発になり、ボトムアップに耳を傾けるように文化が変わった

ように感じられます。異職種間の横のつながりもできました。学会の前身FOUR WINDSの強力な支援をえて、2020年4月から院内職員サポートチーム「オリーブ」が発足しました。2025年頭には、ハラスメント委員会を合併、専属のカウンセラーが毎日常勤する職員向け保健室になりました。これにより、新入職員の離職率も下がりました。個人的には、感染に対する不安感はあったものの、不合理に家庭内でも感染対策をし、余裕のなさからくる焦燥感を抱えた心の状態は強い疲労感として経験されました。いずれも後から分かった実感でした。

現在の永寿病院の面会は、マスク着用義務と1日に15分間のみ一人だけを守っていただくようになっています。例えば世田谷区の成育医療センターの小児病棟では10時～21時に1日当たり2名まで両親のみ面会可能などとなっています。コロナウイルスによる災害的体験を永寿病院はこれからも抱え続けていきます。

図書のご紹介「Today」

これはニュージーランドの子育て支援施設に貼ってあった詠み人知らずの詩、それを伊藤比呂美さんが訳し、そこに下田昌克さんが挿絵を描いた詩の本です。

冒頭は“Today I left some dishes dirty, The bed got made about two-thirty.”で始まります。

「今日、私はお皿を洗わなかった。ベッドはぐちゃぐちゃ」

子育ては大変で、毎日の掃除や皿洗いなんて出来やしない。でもわたしは赤ちゃんが眠るまでおっぱいをやって、抱っこして、遊んであげた。たいしたことはしなかったけど、たぶん、この子のために、すごく大切なことをしていたんだって思えばいいんじゃない？

子育てに追われ、やりたいことも出来ずに、自己嫌悪に陥りがちな母親への応援歌です。子育てに悩んでいるお母さんにぜひ紹介してください。

城東こどもクリニック 赤平 幸子

